

### 7.3 動物重要種現地未確認理由

文献調査において調査地域周辺に生息する可能性が考えられた種のうち、現地調査で確認されなかった種及び考えられる理由を以下に示す。

表7-3-1(1) 動物 未確認重要種

1/7

項目	種名	生息の可能性が低いと判断される理由
哺乳類	カワネズミ	本種の生息適地は、水量の豊富な溪流河川であるが、調査地域における河川形態は、低地では市街地や農耕地周辺を流れる中流域であり、河川の規模が大きすぎるか、ほとんどが人工護岸化されているかのいずれかである。一方、山地の細流は、水量が少ない時期があり、餌となる魚類がほとんどみられない。これらのことから、調査範囲の河川は本種の生息には適さないと考えられる。また、生息に適した上流域から調査地域内に移動してくる場合も考えられたため、調査地域内の河川(上流域より本種が移動してくる可能性のある河川)にトラップを設置し、夏季・秋季の2回捕獲調査を実施したが、確認されなかった。以上のことから、調査地域の河川での本種の生息の可能性は低いものと考えられる。
	ニホンコテングコウモリ	本種の生息に適した環境としては、樹洞を有する大径木を多く含む山地の自然林であり、山梨県レッドデータブックによると、近年の生息確認地は富士吉田市の森林や南アルプス地域の亜高山帯となっている。これらのことから、調査地域での生息の可能性は高くはないと考えられる。ただし、本種の分布に関係する要因については不明な点が多く、他地域における近年の生息記録に関する報告を勘案すると、より里山に近い二次林等の環境でも確認例があることから、環境条件の面では、調査地域は必ずしも不適な条件であるとは言いきれない。このため、現地調査では本種の生息確認に留意して、任意踏査により、本種がねぐらとして利用する樹洞や、洞穴、クズ等の枯れ葉内等を中心としたねぐら探索にくわえ、カスミ網を用いた捕獲調査を実施したが、生息は確認されなかった。
	ホンドモモンガ	本種の生息確認を目的に行った巣箱調査では、既存研究※において生息有無判断の目安とされる延べ300個(75個×4回)の確認調査を実施したものの、生息は確認されなかった。このため、調査地域では本種の生息の可能性は低いものと考えられる。 ※安藤元一. 2005. 樹上性齧歯類を対象とした巣箱調査法の検討. 哺乳類科学45(2):165-176
	ヤマネ	既存文献(山梨県天然記念物報告書)によると、調査地域の一部がわずかに本種の生息確認範囲にかかるのみで、調査地域のほとんどは、生息確認範囲外となっている。また、本種の生息確認を目的に行った巣箱調査では、既存研究※において生息有無判断の目安とされる延べ300個(75個×4回)の確認調査を実施したものの、生息は確認されなかった。このため、調査地域では本種の生息の可能性は低いものと考えられる。 ※安藤元一. 2005. 樹上性齧歯類を対象とした巣箱調査法の検討. 哺乳類科学45(2):165-176
	オコジョ	本州中部における本種の生息域は標高1000m以上のため、調査地域は生息域ではない。

表7-3-1(2) 動物 未確認重要種

2/7

項目	種名	生息の可能性が低いと判断される理由
哺乳類	カモシカ	本種は低山帯から高山帯にかけての樹林地に生息しており、近年、生息数の増加および分布域の拡大が生じ、本県においても、分布域(生息区画数)は増加していることが報告されていることから当該地周辺にも生息している可能性はあるものと考えられる。しかし、当該調査地の樹林地は、盆地上に広がる市街地に隣接した環境であり、従来分布が確認されていた比較的高標高地の山岳地帯とは大きく異なる環境である。よって、調査地周辺における本種の主な生息地は、調査地より北側の山地に広がる樹林帯であるものと考えられる。これらのことから、調査地域では本種の生息の可能性は低いものと考えられる。
鳥類	シロハラミズナギドリ	本来は外洋性の海鳥であり、内陸部である当該地域には生息しない。台風等の影響により一時的に飛来した記録と考えられる。
	サンカノゴイ	本種の生息にはヨシ原を中心とした広大な面積の湿地環境が必要であり、調査地域には生息適地はみられない。
	ヨシゴイ	本種は水辺の広いヨシ原等の湿地に生息し、特に繁殖場所としてヒメガマ群落を選好するが、調査地域の河川や湖沼等の水辺環境については、一部に小規模な湿性植物群落がみられるものの、ヒメガマがまとまって生育するようなヨシ原等の広い湿地環境はみられない。また、山梨県レッドデータブックにおいても「近年では確認情報は少ない」とされていることから、調査地域における生息の可能性は低いと考えられる。
	オオヨシゴイ	池沼周辺のまとまった面積の良質な湿地帯が必要であり、調査地域には生息適地はみられない。夏鳥として渡来するが、山梨県レッドデータブックでは県内での繁殖確認は無いとされる。
	マガン	本種の生息(越冬)には、まとまった面積の水田地帯もしくは湿地が必要であるが、調査地域には本種の生息に適した規模の水田地帯や湿地はみられない。また、本種の定期的な渡来地は非常に限定的であり、他の地域への渡来は希である。
	ヒシクイ	本種の生息(越冬)には、まとまった面積の水田地帯もしくは湿地が必要であるが、調査地域には本種の生息に適した規模の水田地帯や湿地はみられない。また、本種の定期的な渡来地は非常に限定的であり、他の地域への渡来は希である。
	トモエガモ	主に日本海側の本州中部地方以西で越冬するが、分布は局地的であり、他地域では生息数が少ない。また、渡来数は減少している。近年の既存調査※1では山梨県周辺には、まとまった規模の渡来地はみられない。また、第31回ガンカモ科鳥類生息調査(2000年 環境庁※2)では、山梨県内では1羽も確認されていない。このため、文献で確認されている個体も一時的な渡来個体の可能性があり、本調査地域が定期的な渡来地ではないことから、確認されなかったものと考えられる。 ※1 東アジア地域ガンカモ類保全行動計画 日本・韓国合同 トモエガモカウント調査(2004) ※2 調査地点には千代田湖が含まれている。

表7-3-1(3) 動物 未確認重要種

3/7

項目	種名	生息の可能性が低いと判断される理由
鳥類	アカハジロ	非常に希な冬鳥である。国内での記録は僅かであり、同じ場所で2年連続で確認された例は数例のみである。
	イヌワシ	本種の生息域は山地から亜高山帯にかけての岩棚を有する急峻な地域であり、調査地域には本種の生息適地はみられない。また、猛禽類を対象とした既往調査においても飛来は確認されていない。県内では南アルプスに生息するとされる。
	チュウヒ	本種の生息にはまとまった面積のヨシ原もしくは水田地帯などの草地環境が必要であり、調査地域には生息適地はみられない。また、猛禽類を対象とした既往調査においても飛来は確認されていない。
	ウズラ	確認情報が極めて少なく、生息状況が不明である。
	ヒクイナ	本種の生息にはまとまった面積の良質な湿地や、ヨシの繁茂する湿地化した休耕地が点在するような水田地帯が必要であるが、調査地域には本種の生息適地はみられない。
	タマシギ	本種の生息にはまとまった面積の良質な湿地や、ヨシの繁茂する湿地化した休耕地が点在するような水田地帯が必要であるが、調査地域には本種の生息適地はみられない。
	シロチドリ	河川の比較的細かい礫や砂地の多い砂礫地に生息する。釜無川周辺に広範囲の河原が広がっているが、調査地域では、礫の大きい河原が主体であり、本種の生息に適した条件の場所はみられない。
	タゲリ	本種は越冬期には、湿地や水田等の湿った場所で、土壌動物等を採餌するが、調査地域の水田は乾田化されており、冬季にはほとんどが乾燥していることから、本種の採餌場所には適さない。また、水田のほかに本種の利用に適したまとまった湿地環境はみられない。秋季調査終了後の有識者ヒアリングにおいては、調査地域より南側の地域が生息範囲であるとされている。以上のことから、調査地域での生息の可能性は低いものと考えられる。
	アカアシシギ	渡り途中に通過する旅鳥であるが、本種が渡来するのは、広大な干潟や湿地であり、調査地域には本種の生息適地はみられない。
	ハウロクシギ	渡り途中に通過する旅鳥であるが、本種が渡来するのは、広大な干潟や湿地であり、調査地域には本種の生息適地はみられない。
	ヤマシギ	本種は夜行性であることから、鳥類調査時には毎回夜間調査を実施したが、確認されなかった。山梨県レッドデータブックでは、県内では個体数は少ないとされており、近年での記録は身延町や道志村などとされており、いずれも当該地域より離れた地域である。当該地域での生息数が少なく、調査地域では確認されなかったものと考えられる。
	オオジシギ	本種の生息域は高原のまとまった草地であり、調査地域には本種の生息適地はみられない。
	アオシギ	本種の好適な生息環境は森林に囲まれた山間部の溪流や湿地であるが、調査地域における山地の河川や沢の冬季の状況は、水量が少なく、本種の生息に不適な条件となっている。また、山梨県レッドデータブックでは、渡来数は非常に少ないとされている。以上のことから、調査地域での生息の可能性は低いものと考えられる。

表7-3-1(4) 動物 未確認重要種

4/7

項目	種名	生息の可能性が低いと判断される理由
鳥類	トラフズク	現在の県内での生息地は富士山麓、八ヶ岳山麓などの広大な牧草地や畑地が存在する地域に限定されている。
	コミミズク	本種の生息にはまとまった面積のヨシ原もしくは水田地帯などの草地環境が必要であり、調査地域には生息適地はみられない。
	コノハズク	県内では山岳地帯の森林にのみ生息する。調査地域には本種の生息適地はみられない。
	オオコノハズク	県内での個体数は少なく、極めて希である。
	ヨタカ	本州中部における本種の生息域は標高500m～1500mの山地であり、調査地域では山地側がかろうじて生息域に含まれると考えられるが、本種の個体数は減少傾向にあり、山梨県レッドデータブックでは「確認情報が年々少なくなり、人里離れた場所ではしか確認できなくなった」とされている。また、有識者へのヒアリングでも「最近ほとんどいない」とされている。
	ヤマセミ※	本種は溪流周辺に生息しており、調査地域内でも生息している可能性があるが、近年は確認例数が少なくなっている。
	アカショウビン	本種が生息する環境は、餌となる両生類や甲殻類、魚類等が豊富な良質な山地溪流周辺の樹林であり、繁殖には樹洞を有する大径木や巣穴を掘れる朽ち木が必要となるが、調査地域の沢の状況や周辺の樹林の状況から、生息に適した場所はみられない。
	コシアカツバメ	関東地方周辺では元々、沿海部の標高の低い地域が主要な生息域であり、内陸部の分布は少ない種である。ツバメ類は猛禽類を対象とした定点調査時にも比較的観察されやすいが、猛禽類を対象とした既往調査中に調査地域で本種が確認された例はない。 ただし、本種はしだいに分布を広げており、近年では県内でも笛吹川周辺で生息が確認された記録もあり、今後、調査地域でも確認される可能性はある。
	チゴモズ	国内での分布は局地的であり、現在、県内では確認情報が極めて少ない種である。
	アカモズ	高原が生息域であり、県内では富士山麓、八ヶ岳山麓などに局地的に生息する種である。
	キレンジャク	冬鳥として渡来するが、渡来数に年変動が大きく、全く渡来しない年もある。偶発的に確認される可能性はあるが、同地域に定期的に渡来したり、継続的に生息する種とは言えない。
	ヒレンジャク	冬鳥として渡来するが、渡来数に年変動が大きく、全く渡来しない年もある。偶発的に確認される可能性はあるが、同地域に定期的に渡来したり、継続的に生息する種とは言えない。
	マミジロ	主に標高1000～2000mの山地の森林に生息する種であり、調査地域の標高は本種の主要な生息域ではない。
キバシリ	亜高山帯の針葉樹林に生息する種であり、調査地域の標高は本種の生息域ではない。	
コジュリン	高原やまとまった規模のヨシ原に局地的に分布する種であり、調査地域に生息適地はみられない。	

表7-3-1(5) 動物 未確認重要種

5/7

項目	種名	生息の可能性が低いと判断される理由
鳥類	ノジコ	山地や高原の樹林に生息する種であるが、分布は局地的で、県内では富士山麓などに生息する。溪流沿いや湿原周辺のハンノキ林やヤナギ林など比較的湿った樹林環境に生息するが、調査地域に生息適地はみられない。
	クロジ	標高の高い山地から亜高山で繁殖し、冬季に低山に生息する種であるため、当該地域では冬鳥に該当するが、冬季調査では確認されなかった。山梨県レッドデータブックでは、個体数は少なく、県内における繁殖も確認されていないとされていることから、調査地域に冬鳥として渡来する可能性も低いものと考えられる。
	ハギマシコ	標高500～1000mの山地の岩場の草地に生息する。調査地域では、標高的に一部生息範囲であり、岩場も見られるが、ほとんどが裸地か樹林であり、本種が利用できる草地環境はみられない。
	オオマシコ	県内では標高1000m以上の地域が主要な生息域であり、調査地域の標高は本種の主要な生息域ではない。
	イスカ	冬鳥として渡来するが、渡来数の年変動が著しく、確認情報が少なく、生息状況が不明である。偶発的に確認される可能性はあるが、同地域に定期的に渡来したり、継続的に生息する種とは言えない。
両生類・爬虫類	ハコネサンショウウオ	決定的な理由は断定できないが、考えられる要因としては、①水質が良くない(水が白濁した沢が多かった)、②調査地域の沢では岩の合間に砂が詰まっている箇所が多く、サンショウウオの生息に不適な条件である(ハコネサンショウウオは沢の岩の空隙を産卵場所とする)、③調査地域の沢はサンショウウオが生息する場所としては水量がやや少ないといった事が考えられる。これらのことから生息の可能性は低いと考えられる。
	イモリ	本種の生息環境である溜池や水田地帯の水路等の水域を調査したが、確認されなかった。山梨県レッドデータブックでは、本種の生息地は山岳地帯の溜池や山に近い盆地周辺の水田などとされており、調査地域にはこれらの環境が一部にみられるが、水田に関しては水路のほとんどは、護岸化されており、本種の生息には不適な条件となっている。 また、環境省ホームページの外来生物法の項目における記載によると、アメリカザリガニが生息する水域では、イモリの繁殖行動が制限されることが報告されている。調査地域のイモリの生息環境となりうる水辺環境ではほぼ全域でアメリカザリガニが確認されており、イモリの生息に不適な条件となっている。 これらのことから生息の可能性は低いと考えられる。
魚類	ヤマメ	県内における在来個体群の生息域は多摩川水系と相模川水系に限られており、富士川水系である調査地域は本種の在来個体群の生息範囲ではない。
	スジシマドジョウ	平成10年度河川水辺の国勢調査において笛吹川で生息が確認されているが、本種の在来個体群の生息域は琵琶湖周辺であり、笛吹川(富士川水系)は本種の在来個体群の生息域には含まれず、移入個体(放流種苗への混入か飼育魚の逃亡又は投棄によるもの)の可能性が高い。

表7-3-1(6) 動物 未確認重要種

6/7

項目	種名	生息の可能性が低いと判断される理由
魚類	メダカ	本種の生息環境である河川や溜池、水田・水路等の水域を調査したが、確認されなかった。このうち、調査地域の水田については、ほぼ乾田化されており、水路も護岸化され、農閑期には流水が止められていることから、メダカの生息に不適な条件となっている。また、河川や溜池等では、ブラックバスやアメリカザリガニ等の外来種が生息していることから、これらの捕食圧により、メダカの生息に不適な条件となっている。これらのことから調査地域の水域における生息の可能性は低いと考えられる。
昆虫類	アオハダトンボ	山梨県レッドデータブックでは「県内では、韮崎市と北杜市の峡北地方にみられるだけである」とされていることから、県内の分布が局地的であり、調査地域内が分布域からは外れているものと考えられる。
	オオクワガタ	昆虫愛好者や業者の乱獲により、減少が進んでいるものと考えられる。山梨県レッドデータブックの記述でも「近年の減少は著しく、山梨県内の「かつての大産地」でさえも今は見る影もないほど激減している」とされていることから、調査地域内で確認される可能性は低いと考えられる。
	ヒメビロウドカミキリ	周辺が開けて明るい場所を好む草原性のカミキリムシで、食草はオトコヨモギであり、生育する場所を探索したが確認できなかった。
	ホシチャバネセセリ	県内では八ヶ岳、富士山などの火山地帯の裾野に多く、樹林の間の小さい草地や疎林周辺が主要な生息環境であるが、調査地域には同様の環境は少ない。
	アカセセリ	県内では標高1000m前後の開けた草原が主要な生息域である。調査地域の標高ではやや低く、まとまった草地環境もほとんどない。
	スジグロチャバネセセリ	山梨県レッドデータブックでは「1998年以降に公表された県内のデータは無い。環境資源調査に於いては2001年に最後の記録を残すのみ」とされており、山梨県内での生息数は極めて少ないと考えられる。
	ヒメギフチョウ本州亜種	調査地域は本種の生息域からはずれている。
	ツマグロキチョウ	県内では低地から低山地に記録があるが、最近では南部町を中心とした県南部に限られる(山梨県レッドデータブック)。そのため、調査地域内で確認される可能性は低いと考えられる。また、有識者ヒアリングにおいて県内では絶滅したとされている。
	ヤマキチョウ	本州中部における垂直分布の中心は標高800~1500mぐらいの範囲である。生息地が多いのは、食樹のクロツバラの生育する火山の裾野などの高原地帯である(原色日本蝶類生態図鑑I)。そのような環境は調査地域にほとんど見られない。また、隣県の長野県でも近年ごくまれにしか見られないチョウとなっている(信州の蝶)。以上の状況を考えると、本種が確認される可能性は低いと考えられる。
	ヒメシロチョウ	日当たりの良い山地草原が主要な生息環境であるが、調査地域内にはまとまった草地環境はほとんどない。

表7-3-1(7) 動物 未確認重要種

項目	種名	生息の可能性が低いと判断される理由
昆虫類	ハヤシミドリシジミ	カシワが主要な食餌植物であるが、調査地域にはカシワの生育はみられない。
	クロミドリシジミ※	成虫はクヌギの梢付近を飛翔する。調査適期にクヌギ林(特にクヌギの生育が良好な場所)に留意して調査を行ったが確認できなかった。なお、「茅ヶ岳南麓や春日居町、勝沼町、長坂町などが生息地として知られるが、この場所も近い将来になくなりそうな気配がある」(山梨の蝶 甲州昆虫同好会)ことから、山梨県内での生息数は多くないと考えられる。
	ミヤマシジミ	食草のコマツナギが生育する場所を探索したが確認できなかった(長期間安定した場所で、土壤の乾燥などにより遷移の進行が妨げられる場所が本種の生息地であるが、調査地域内にそのような場所は少ない)。
	アサマシジミ 中部地方中山帯亜種	日当たりの良い草原が主要な生息環境であるが、調査地域内にはまとまった草地環境は限られている。
	ゴマシジミ中部地方 中山帯・中国地方・ 九州亜種	日当たりの良い乾燥した草原が主要な生息環境であるが、調査地域内にはまとまった草地環境は限られている。
	ヒメシジミ本州・九 州亜種	食草のマアザミ、タイツリソウ等(マメ科、キク科、タデ科)が生育するまとまった草地は、道路周辺に限られており、そのような環境でも調査を実施したが、確認できなかった。
	ヒョウモンチョウ本 州中部亜種	日当たりの良い乾燥した明るい草原が主要な生息環境であるが、調査地域内にはまとまった草地環境は限られている。
	ヒョウモンモドキ	山梨県レッドデータブックでは「過去に甲斐市や甲府市から記録はあるが、1990年代後半から全く記録が得られていない」とされていることから、調査地域内に生息している可能性は低い。
キマダラモドキ	山梨県レッドデータブックでは「県内では富士山麓、塩山市、都留市、南巨摩、中巨摩、北巨摩地域の標高1000m前後に局所的に生息する」とされていることから、調査地域内は分布域から外れているものと考えられる。	

※ ヤマセミ、クロミドリシジミは未確認であるが、有識者へのヒアリング調査の際、生息及び生息の可能性があるとの情報を得たため、予測と保全対策の検討を行なっている。



## 7.4 オオタカ検討会資料

重要な鳥類（猛禽類）の調査は、平成12年から19年にかけて山梨県の野鳥専門家らなる「甲府北部 オオタカ検討会」（国土交通省）により行われた。同様に調査を行っている。

調査地域では合計5箇所でおオタカの営巣が確認されているが、営巣確認位置については、おオタカ保護の観点から公表は控える。

また、5箇所（A～E地区とする）の営巣地区のうち、A地区が明かり部に比較的近接した場所で確認されている。

各地区のおオタカの営巣木、営巣林、巣の大きさ等の営巣環境の状況、行動圏の状況は以下に示すとおりである。

営巣環境の状況

営巣地区名		A	B	C	D	E
道路との水平距離 <small>注1)</small>		約500m	約2,500m	約1,800m	約2,400m	約600m
道路構造		明かり部	トンネル部			
営 巣 木	樹種	アカマツ	アカマツ	アカマツ	アカマツ	アカマツ
	樹高	約18m	約23m	約22m	約19m	約16m
	胸高直径	46cm	35cm	28cm	37cm	28cm
営巣林の主な 植生		アカマツ林	アカマツ林	アカマツ・落葉 広葉樹混交林	アカマツ・ ヒノキ混交林	アカマツ・落葉 広葉樹混交林
巣の大きさ		直径約100cm 厚さ 約40cm	直径約100cm 厚さ 約50cm	直径70～90cm 厚さ40～45cm	直径80～90cm 厚さ約50cm	直径80～100cm 厚さ約40cm
架巣高		地上約17m	地上約18m	地上約16m	地上約16m	地上約13m
繁殖 状況	H14	成功(2羽)	成功(1羽)	—	—	—
	H15	成功(3羽)	成功(1羽)	—	—	—
	H16	成功(1羽)	成功(2羽)	成功(2羽)	成功(1羽)	—
	H17	繁殖せず	成功(3羽) <sup>注4)</sup>	成功(3羽)	繁殖せず	—
	H18	成功(1羽) <sup>注3)</sup>	成功(1羽)	成功(2羽)	中断 <sup>注5)</sup>	成功(2羽)
	H19	成功(2羽)	成功(1羽)	中断 <sup>注5)</sup>	繁殖せず	中断 <sup>注5)</sup>
	H20	成功(3羽)	成功(1羽)	成功(3羽)	繁殖せず	繁殖せず
	H21	成功(2羽) <sup>注6)</sup>	繁殖せず	繁殖せず	繁殖せず	繁殖せず
	H22	成功(2羽)	成功(1羽)	成功(1羽)	繁殖せず	繁殖せず
	H23	中断 <sup>注5)</sup>	繁殖せず	中断 <sup>注5)</sup>	繁殖せず	繁殖せず

注1) 道路との水平距離は、営巣地区毎に最も繁殖実績が新しい営巣木から、最も近い計画路線の改変部までの距離を表す。

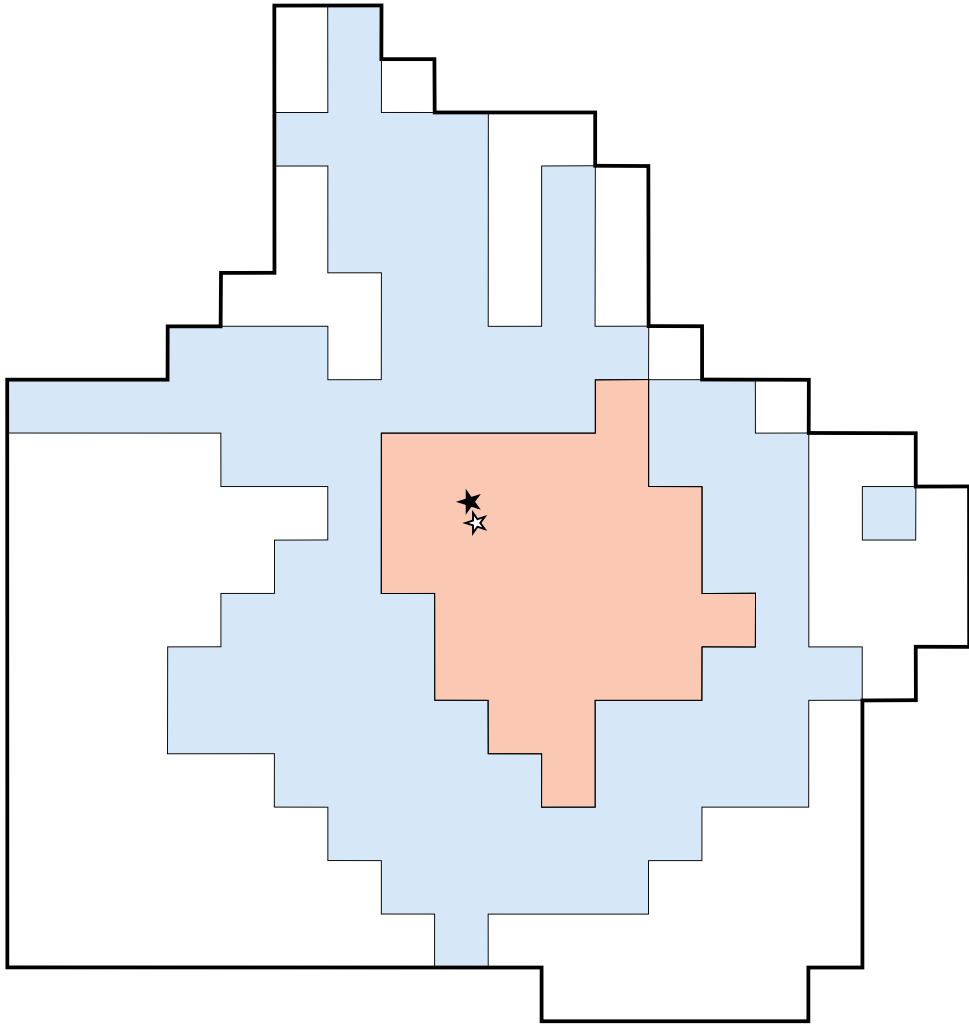
注2) ( )内羽数は巣立ちが確認された幼鳥の羽数であり、全雛羽数ではない。

注3) 雛は3羽確認されているが、巣立ちを確認しているのは少なくとも1羽である。また、営巣木直下の痕跡から、少なくとも1羽は巣立ち前に落鳥したものと判断された。

注4) 巣立ち羽数の確認には至っていないが、7月に孵化後25～30日程度の雛3羽が確認された。

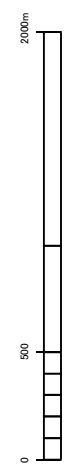
注5) 抱卵期から巣内育雛期の途中で、繁殖中断若しくは繁殖失敗したものと判断された。

注6) 巣の利用(抱卵、巣内の幼鳥を目視等)の確認には至っていないが、巣周辺で6月及び7月にすでに巣立っている幼鳥2羽が確認された。

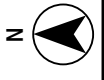


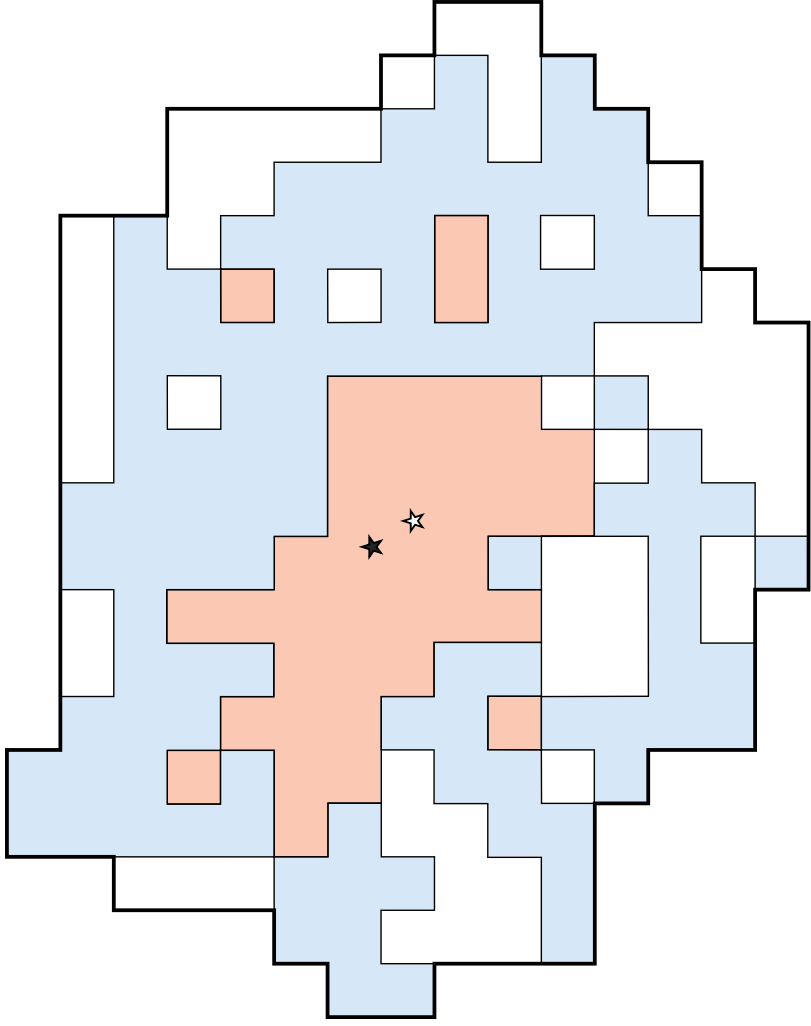
- 凡例
- 最大行動圏
  - 95%行動圏
  - 高利用域

図 7-4-1(1) A地域 マシシユ解析結果(平成14年・平成15年)



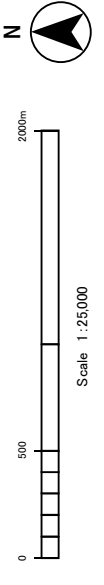
Scale 1:25,000

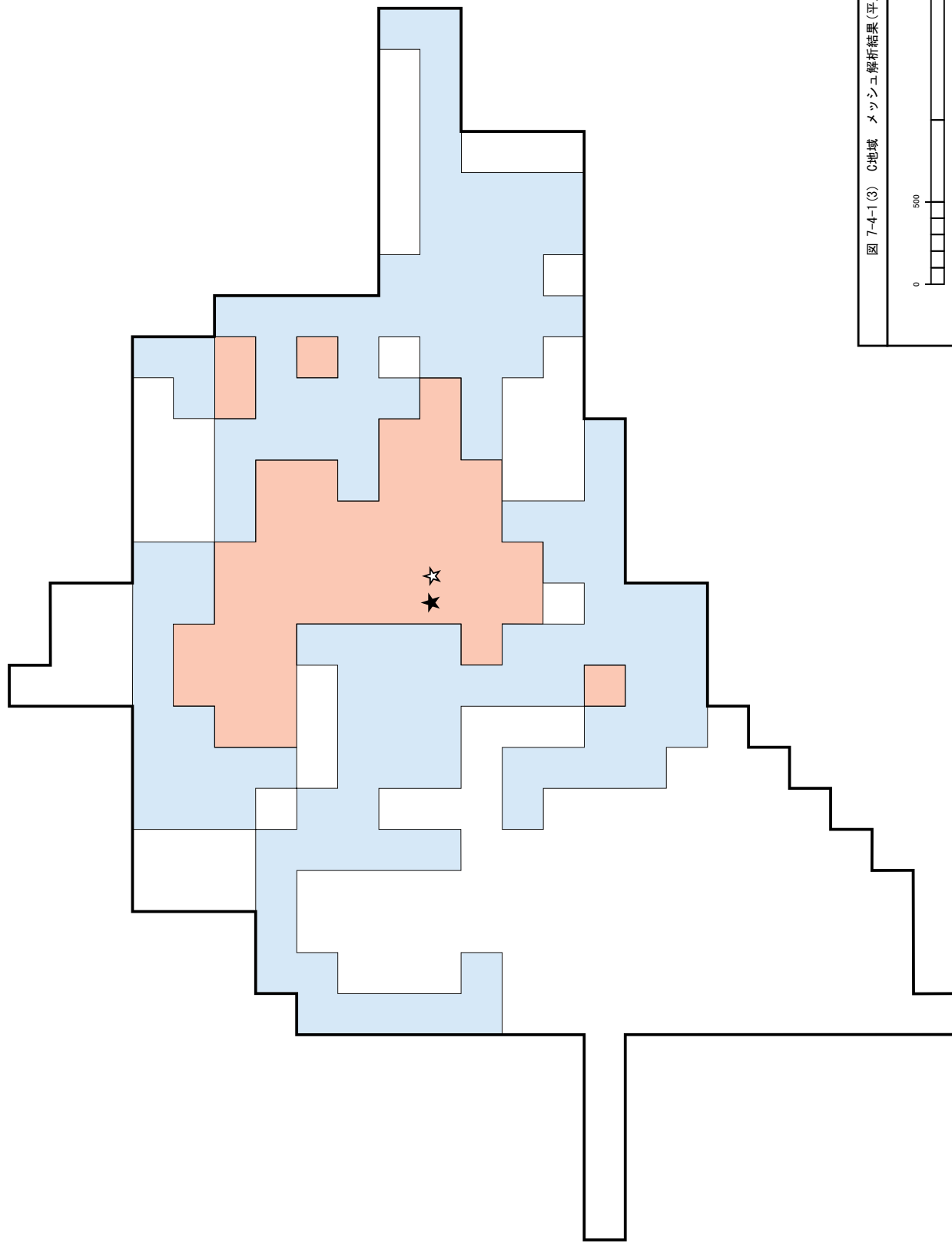




- 凡例
- 最大行動圏
  - 95%行動圏
  - 高利用域

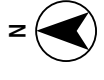
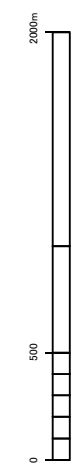
図 7-4-1(2) B地域 モシシユ解析結果(平成14年・平成15年)

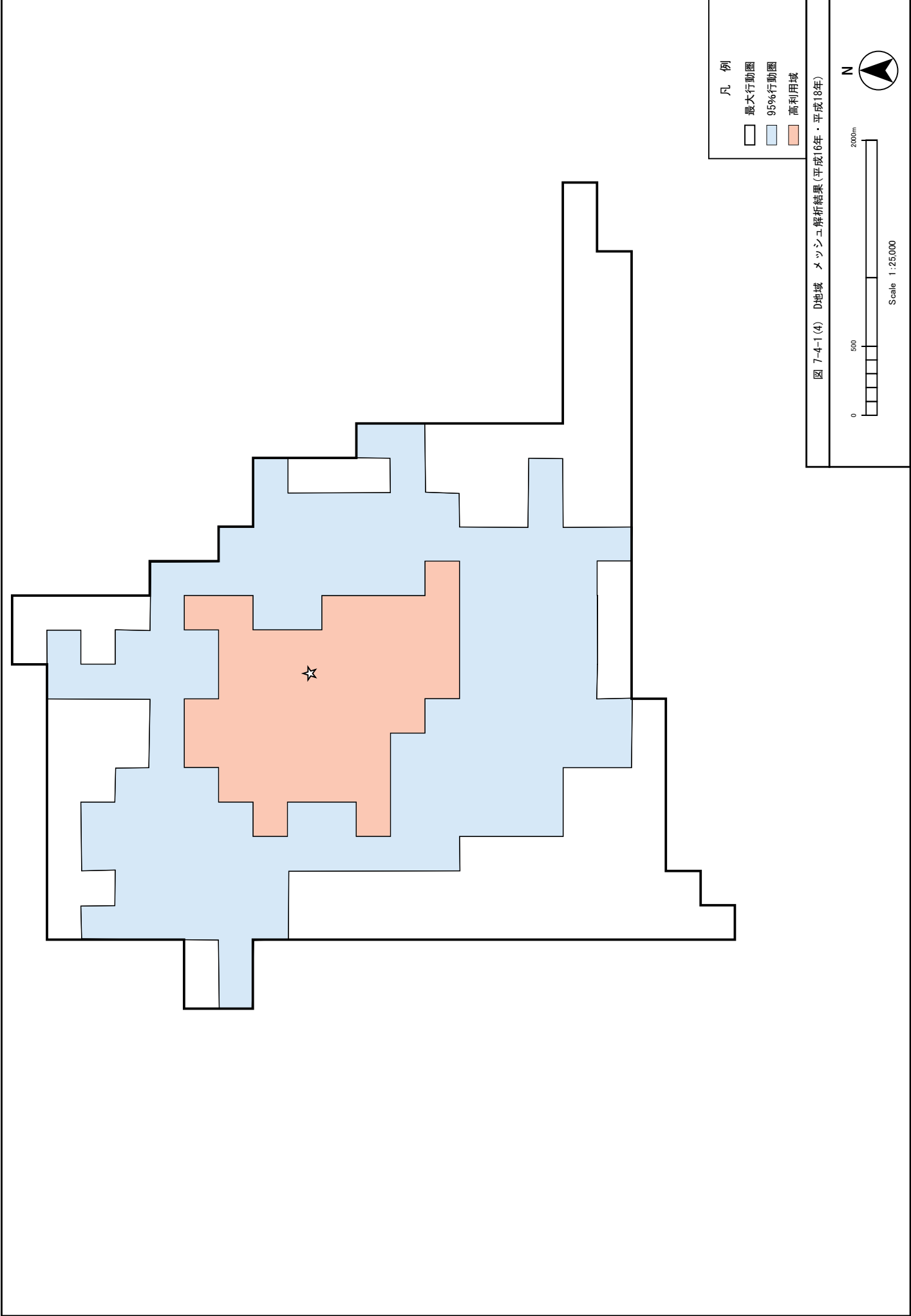




- 凡 例
- 最大行動圏
  - 95%行動圏
  - 高利用域

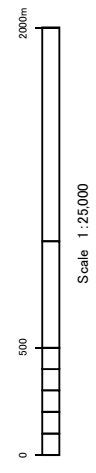
図 7-4-1 (3) C地域 メッシュ解析結果 (平成16年・平成17年)

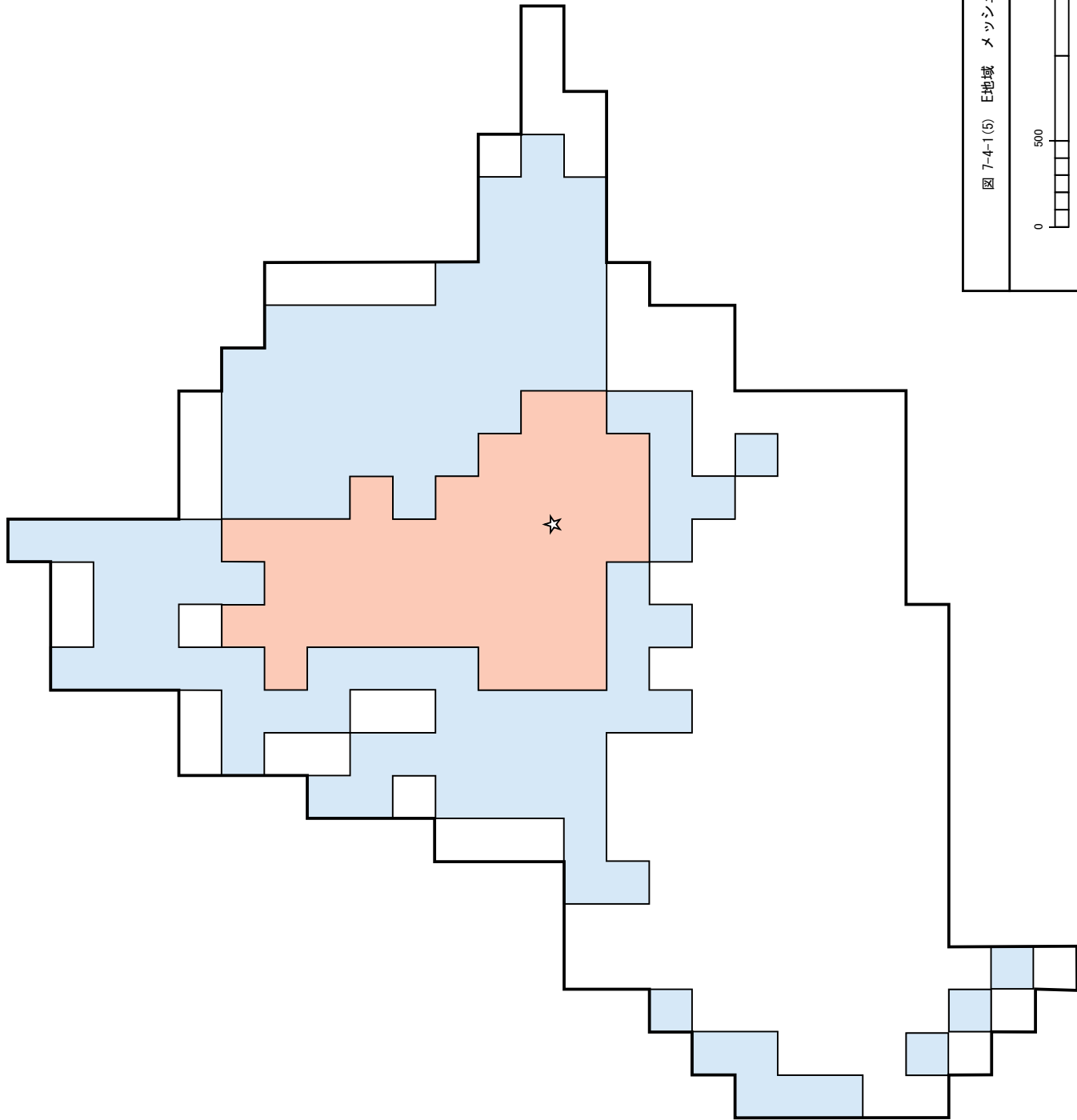




- 凡 例
- 最大行動圏
  - 95%行動圏
  - 高利用域

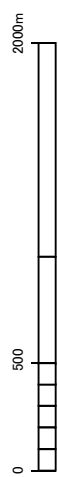
図 7-4-1 (4) D地域 メッシュ解析結果 (平成16年・平成18年)





- 凡例
- 最大行動圏
  - 95%行動圏
  - 高利用域

図 7-4-1 (5) E地域 メッシュ解析結果 (平成18年・平成19年)



Scale 1:25,000



行動凡例

- 飛行ルート
- ←←←←← ティスブレイ
- ←←←←← 餌運び
- とまり位置
- ⊕ ハンテイング
- ⊙ 旋回上昇
- ← 急降下
- X 攻撃
- 鳴き声
- ← 交尾
- ← 林内に消失
- ←○ 林内から出現

齢性凡例

- 成鳥・♂
- 成鳥・♀
- 成鳥・不明
- 若鳥
- 幼鳥
- 不明

凡例

- 定点調査位置
- ☆ 平成14年に確認されたオオタカ営巣木の位置
- ★ 平成15年に確認されたオオタカ営巣木の位置

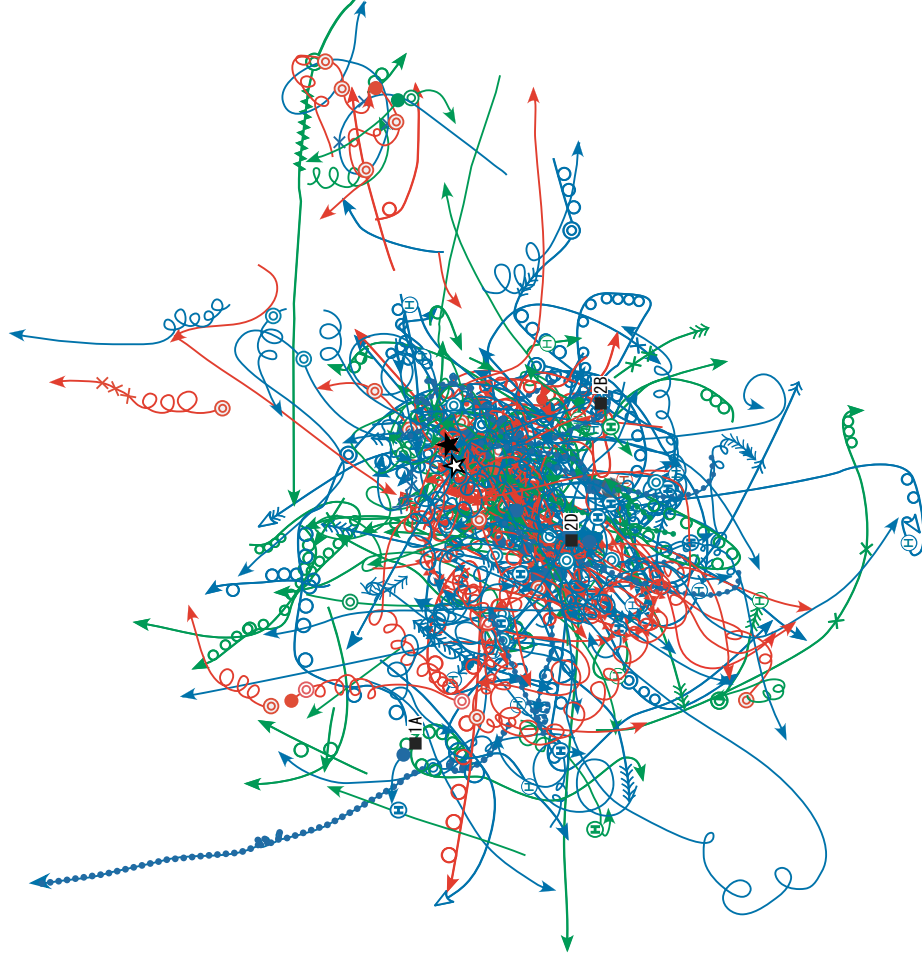
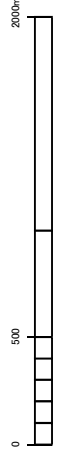


図 7-4-1 (6) A地域 営巣期の飛翔軌跡図 (平成14年・平成15年)



Scale 1 : 25,000

行動凡例

- ← 飛行ルート
- ←←←←← ティスブレイ
- ←←←←← 餌運び
- とまり位置
- ⊕ ハンテイング
- ⊙ 旋回上昇
- ←← 急降下
- X 攻撃
- 鳴き声
- 交尾
- ← 林内に消失
- ←○ 林内から出現

齢性凡例

- ← 成鳥・♂
- ← 成鳥・♀
- ← 成鳥・不明
- ← 若鳥
- ← 幼鳥
- ← 不明

凡例

- 定点調査位置
- ☆ 平成14年に確認されたオオタカノ営巣木の位置
- ★ 平成15年に確認されたオオタカノ営巣木の位置

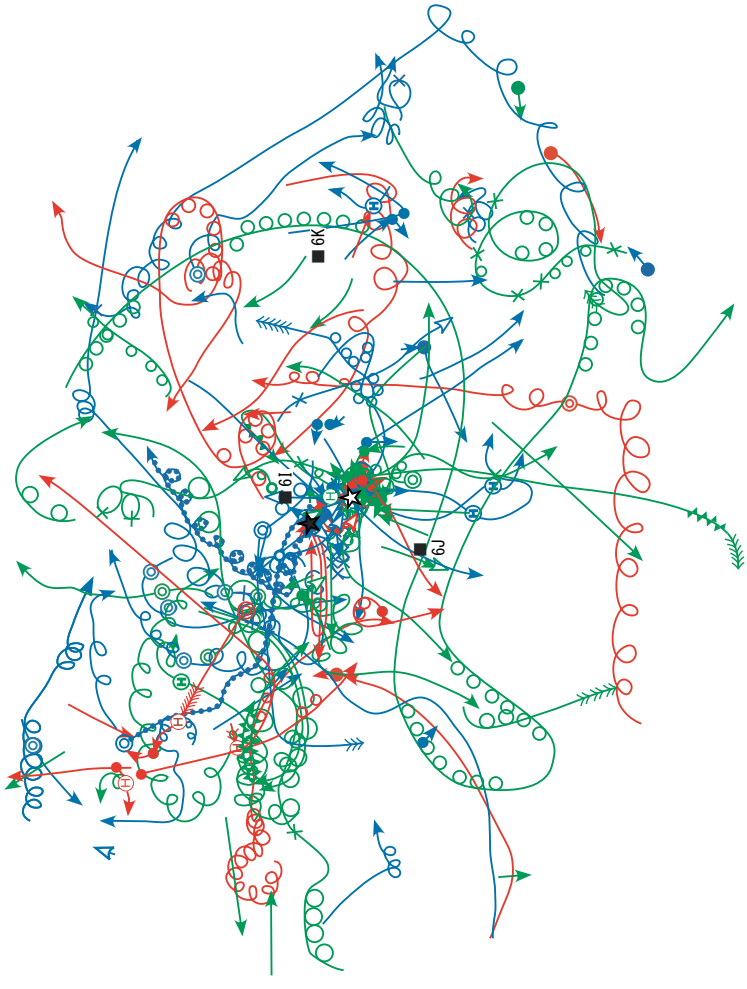
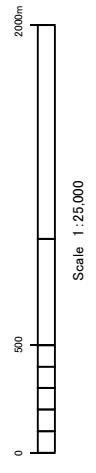
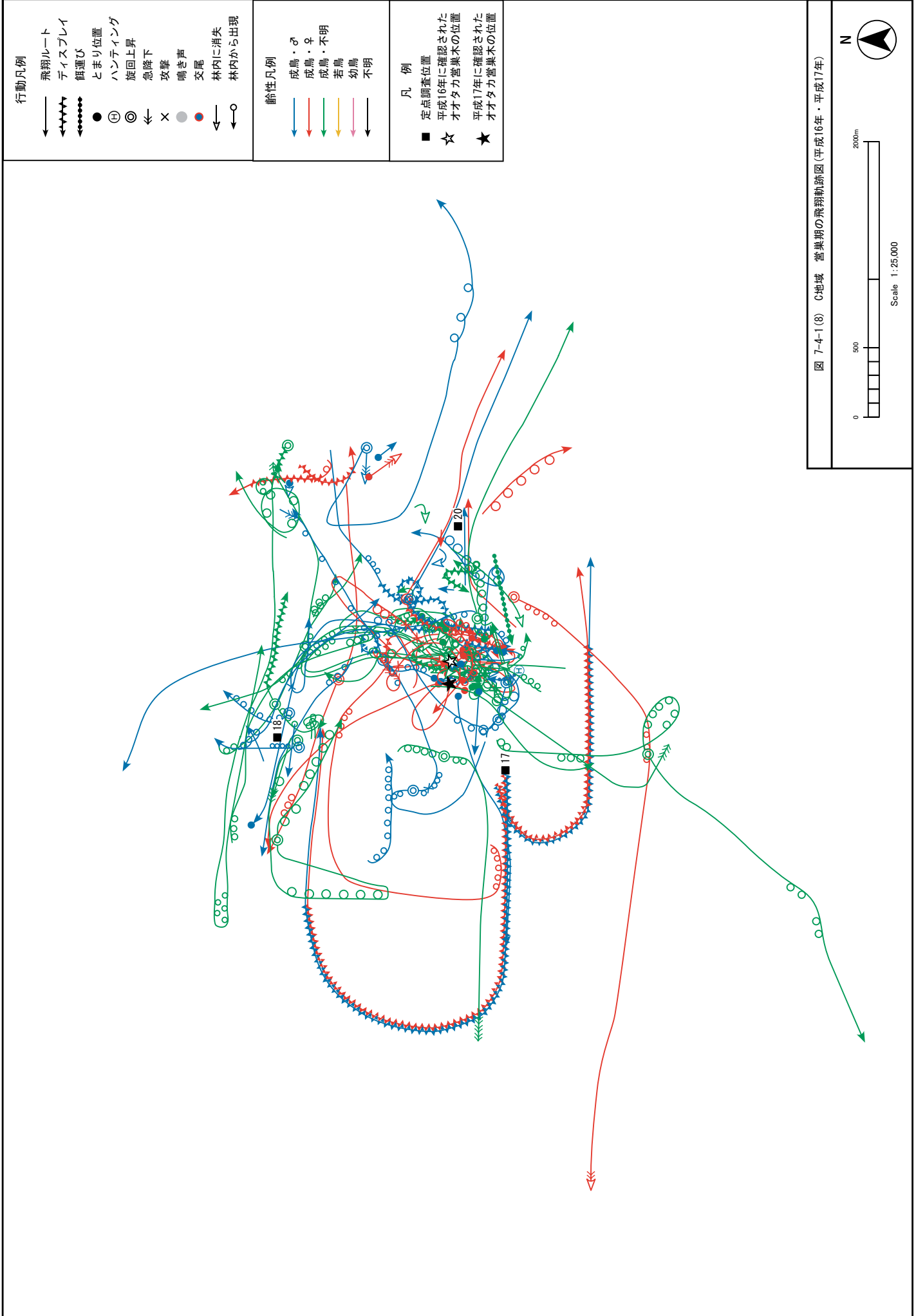


図 7-4-1 (7) B地域 営巣期の飛翔軌跡図(平成14年・平成15年)



Scale 1:25,000





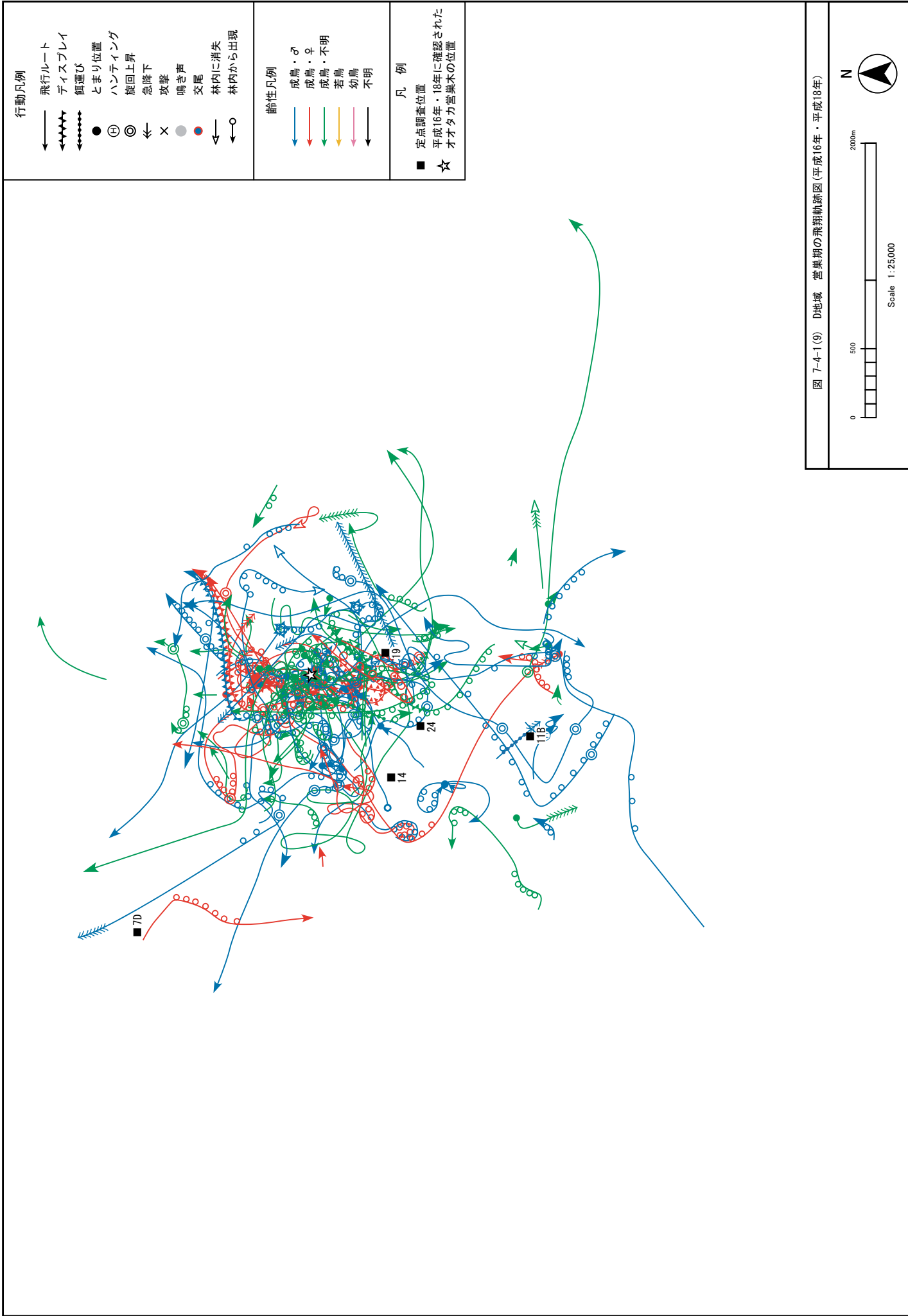
- 行動凡例**
- ← 飛行ルート
  - ←←←←← ティスブレイ
  - ←←←←← 徘徊
  - とまり位置
  - ④ ハンテイング
  - ◎ 旋回上昇
  - ⇐ 急降下
  - × 攻撃
  - 鳴き声
  - 交尾
  - ← 林内に消失
  - ←○ 林内から出現

- 齢性凡例**
- ← 成鳥・♂
  - ← 成鳥・♀
  - ← 成鳥・不明
  - ← 若鳥
  - ← 幼鳥
  - ← 不明

- 凡例**
- 定点調査位置
  - ☆ 平成16年に確認されたオオタカ営巣木の位置
  - ★ 平成17年に確認されたオオタカ営巣木の位置

図 7-4-1(8) C地域 営巣期の飛行軌跡図(平成16年・平成17年)





行動凡例

- 飛行ルート
- ←←←←← ディスプレイ
- ←←←←← 餌運び
- とまり位置
- ⊕ ハンテイング
- ⊙ 旋回上昇
- ←← 急降下
- X 攻撃
- 鳴き声
- 交尾
- ← 林内に消失
- ←○ 林内から出現

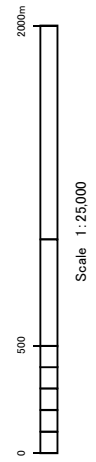
齢性凡例

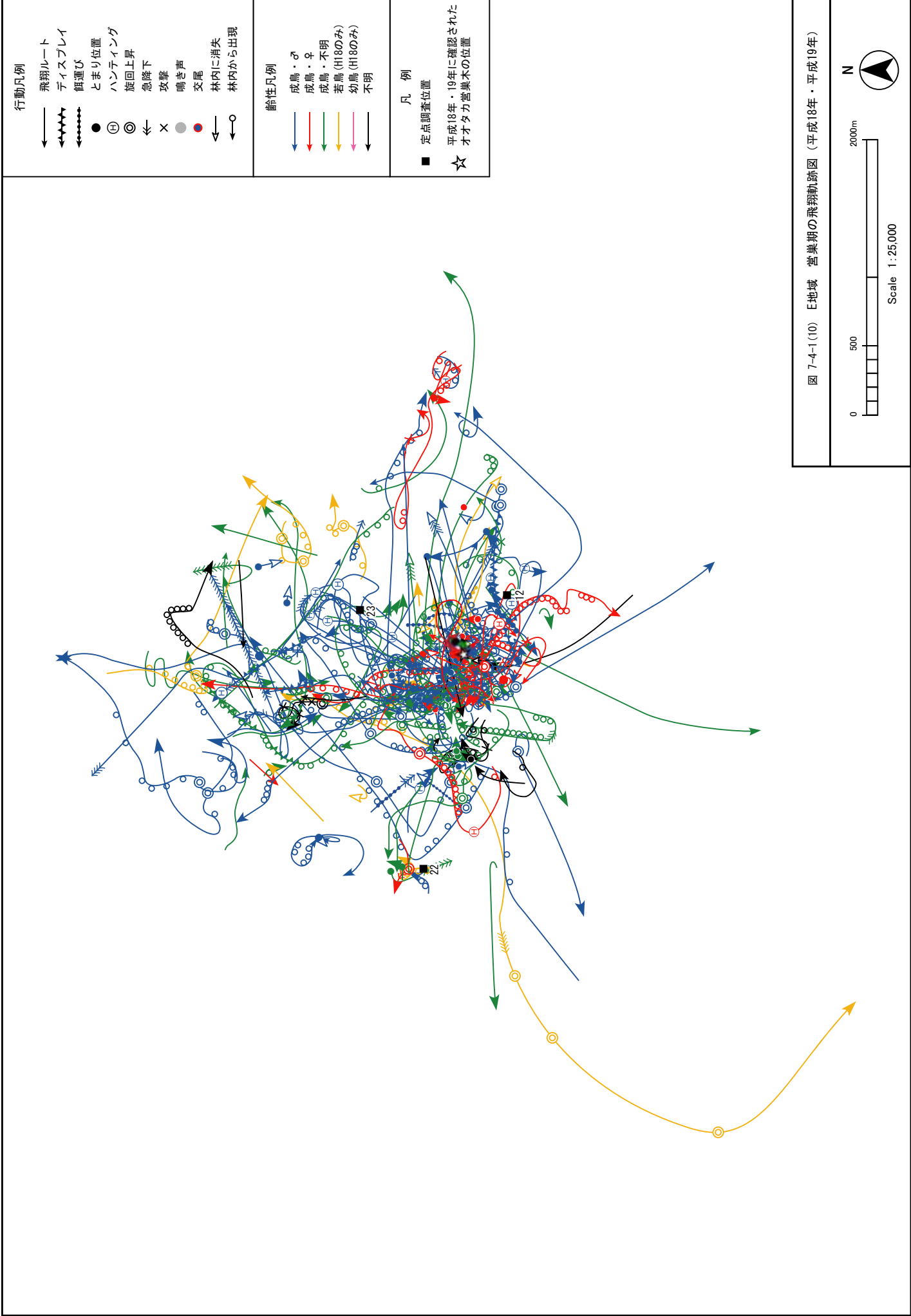
- 成鳥・♂
- 成鳥・♀
- 成鳥・不明
- 若鳥
- 幼鳥
- 不明

凡例

- 定点調査位置
- ☆ 平成16年・18年に確認されたオオタカノ宮巣木の位置

図 7-4-1 (9) D地域 営巣期の飛翔軌跡図 (平成16年・平成18年)





行動凡例

- 飛翔ルート
- - - ティスブレイ
- ←←←←← 側運び
- とまり位置
- ⊕ ハンテイング
- ⊙ 旋回上昇
- ←← 急降下
- X 攻撃
- 鳴き声
- 交尾
- ← 林内に消失
- ←○ 林内から出現

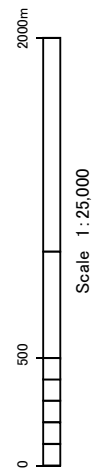
齢性凡例

- 成鳥・♂
- 成鳥・♀
- 成鳥・不明
- 若鳥 (H18のみ)
- 幼鳥 (H18のみ)
- 不明

凡 例

- 定点調査位置
- ☆ 平成18年・19年に確認されたオオタカ営巣木の位置

図 7-4-1(10) E地域 営巣期の飛翔軌跡図 (平成18年・平成19年)



## 7.5 相川周辺の水生生物等の確認状況

相川周辺で確認された水生生物等（爬虫類、昆虫類、その他無脊椎動物、湿性植物）の位置及び調査地点を以下に示す。

